世界が進むチカラになる。

MUFG

経済調査

欧州景気概況（2026年11月）

2026年11月2日

調査部 主任研究員

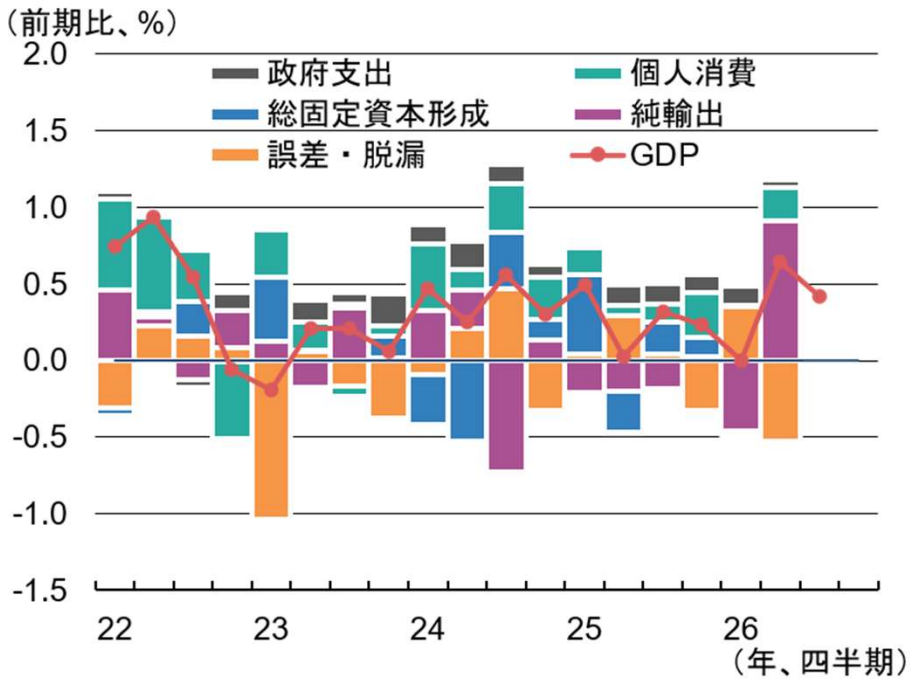
土田 陽介

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

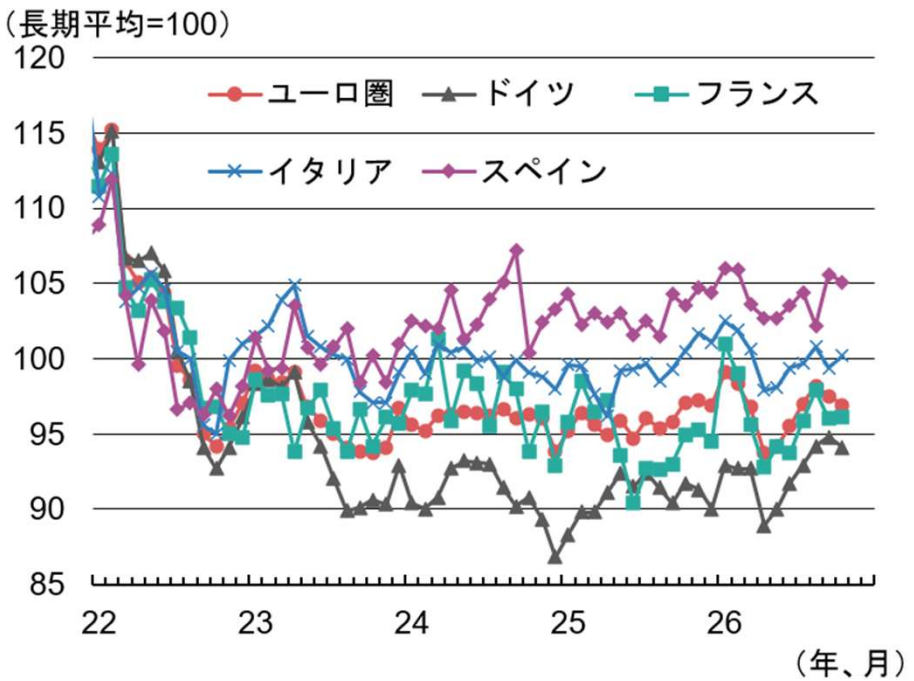
ユーロ圏の7-9月期の実質GDP（速報値）は前期比+0.4%と、1-3月期（同+0.6%）から増勢が鈍化した。主要国別には、スペインが同+0.6%と堅調を維持した一方、ドイツが同+0.2%と2期連続で鈍化し、イタリアが同横ばいに失速、フランスは同▲0.1%と再び減少した。他方、最新10月の景況感指数は96.9と2カ月連続で低下した。

実質GDP



（出所）欧州連合統計局（ユーロスタット）

景況感指数

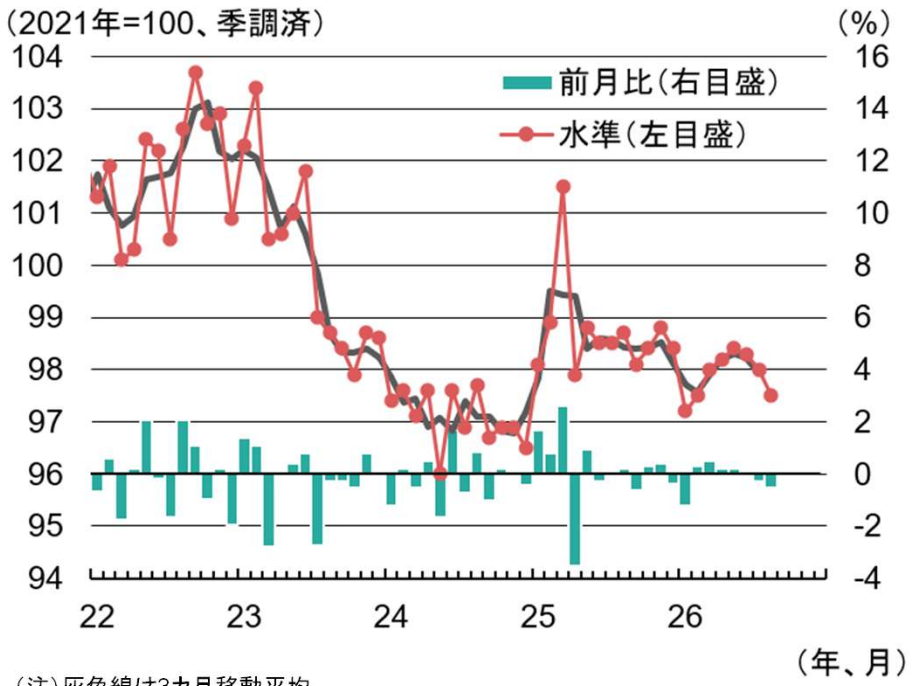


（出所）欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は低迷している

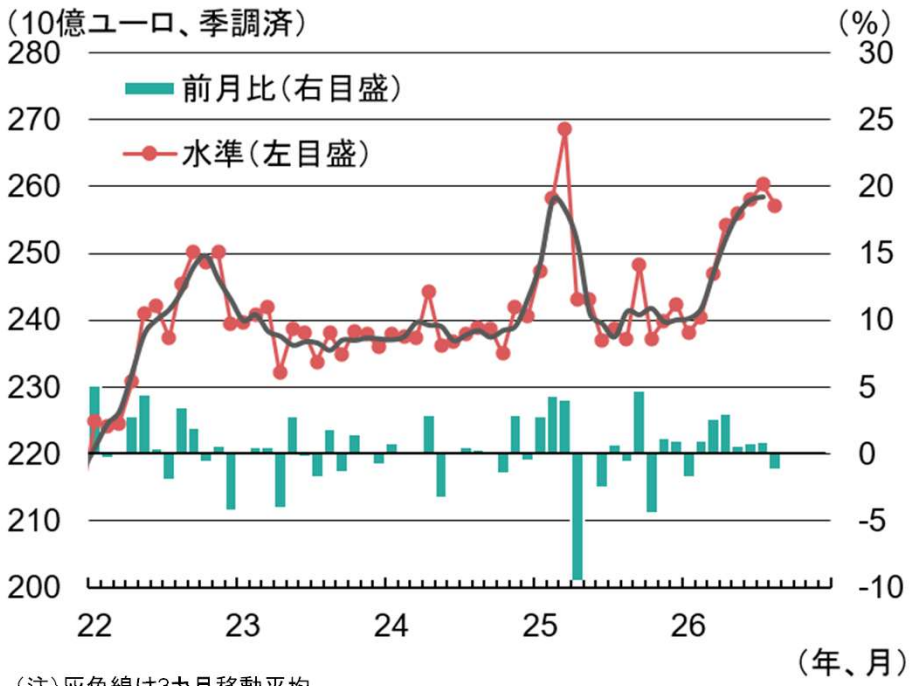
ユーロ圏の8月の鉱工業生産は前月比▲0.5%と3カ月連続で減少し、均した動きでも下向きに。非耐久財の減少が生産全体の重荷となった。一方、同月の名目輸出は同▲1.4%と1月以来の減少に転じ、均した動きも頭打ち。

鉱工業生産



(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ユーロスタット

名目輸出

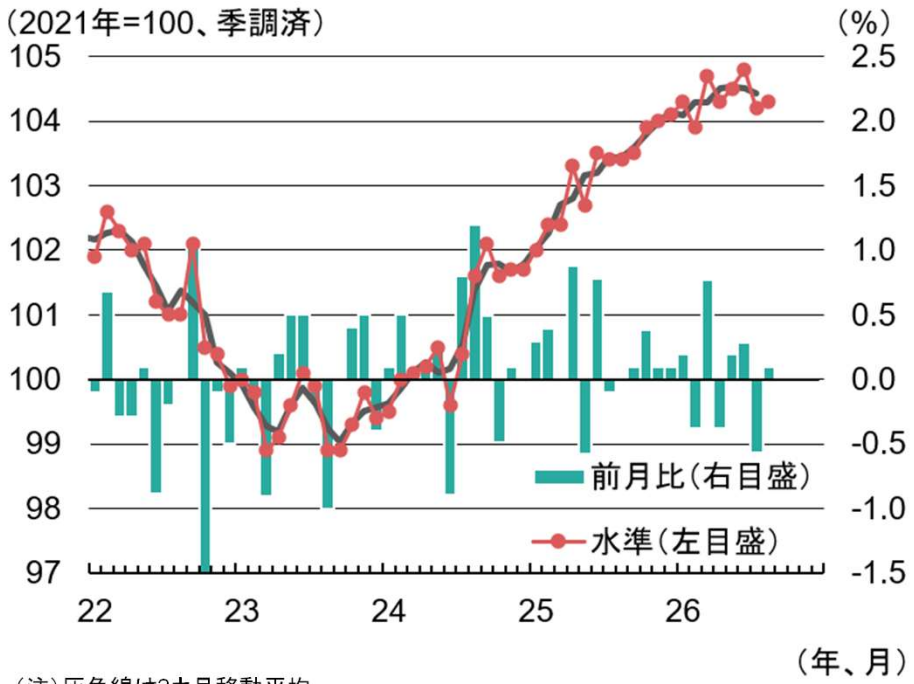


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は頭打ち

ユーロ圏の8月の小売数量は前月比+0.1%と再び増加したが、均した動きは下向き。一方、9月の新車販売台数は前月比+5.7%の年率1,004万台と急伸し、均した水準は上向きに。ハイブリッド車を中心に電気自動車やプラグインハイブリッド車が堅調を維持。

小売数量



(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ユーロスタット

新車販売台数

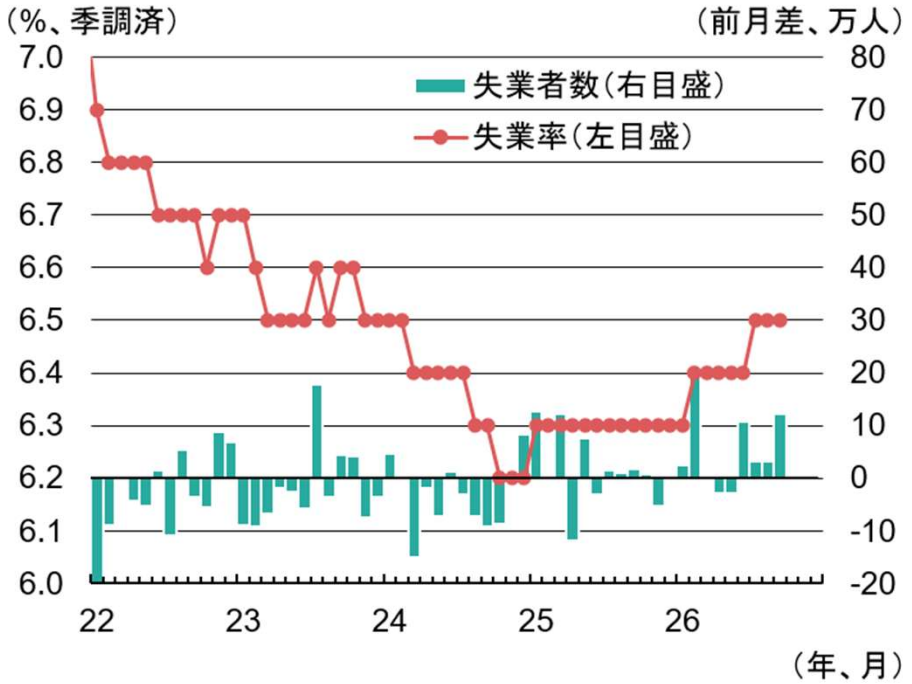


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)欧州中央銀行(ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は緩やかに悪化

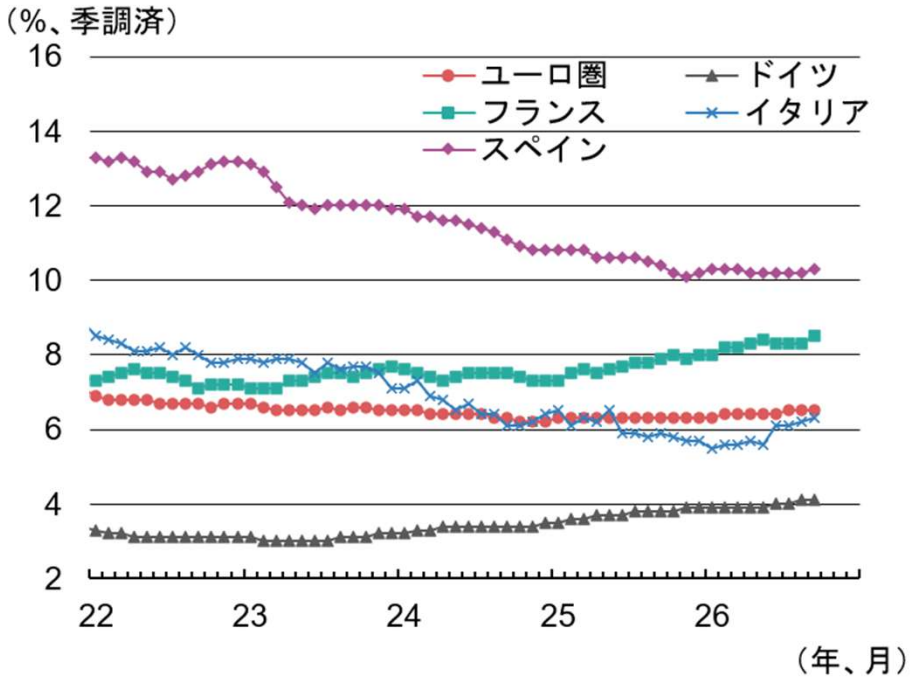
ユーロ圏の9月の雇用統計では、失業率が6.5%と3カ月連続で同じ水準となった一方、失業者数は前月差12.2万人増と4カ月連続で増加しており、雇用情勢は緩やかに悪化している。失業率を主要国別に確認すると、ほぼすべての国で失業率が上向きとなっている。

失業率と失業者数



（出所）ユーロスタット

主要国別失業率

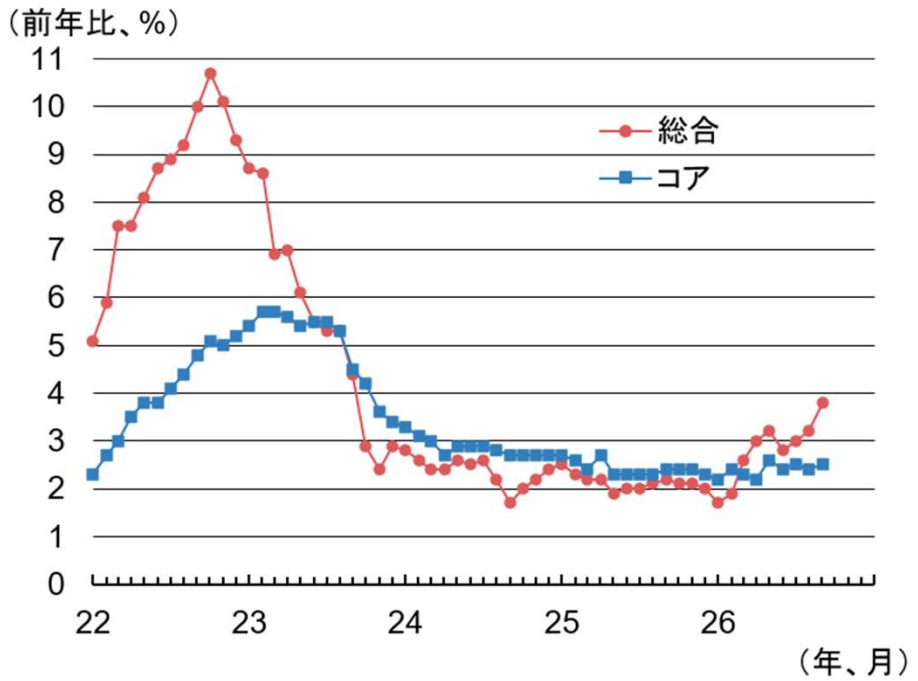


（出所）ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは加速している

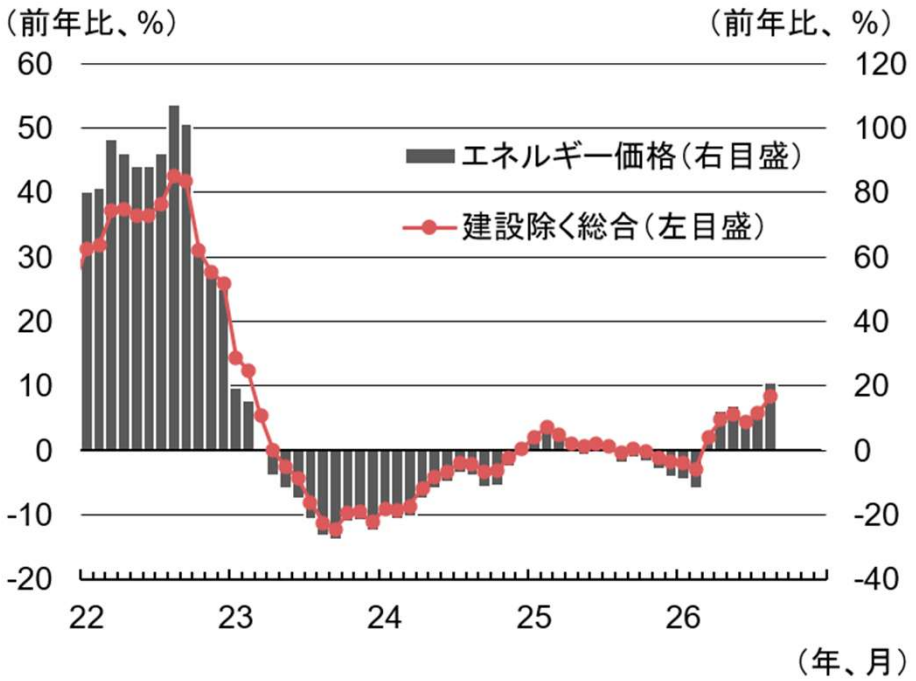
ユーロ圏の9月の消費者物価（総合ベース）は前年比+3.8%と、3カ月連続で上昇が加速した。また8月の生産者物価（建設除く総合）は同+8.3%と、2カ月連続で上昇が再び加速した。うちエネルギー価格も同+21.0%と上昇の加速が続いている。

消費者物価



（出所）ユーロスタット

生産者物価

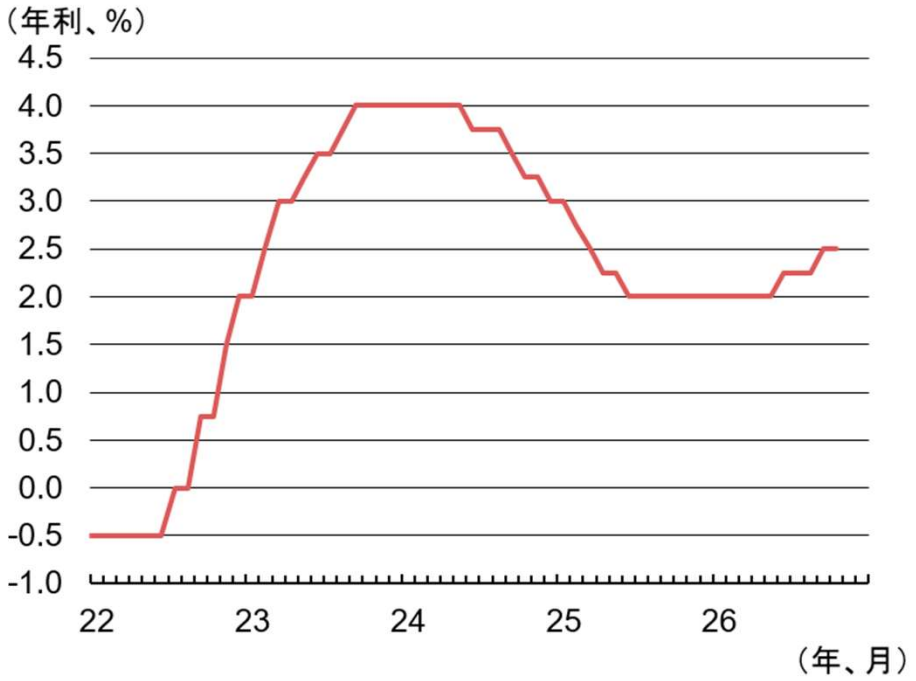


（出所）ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは10月理事会で金利を据え置き

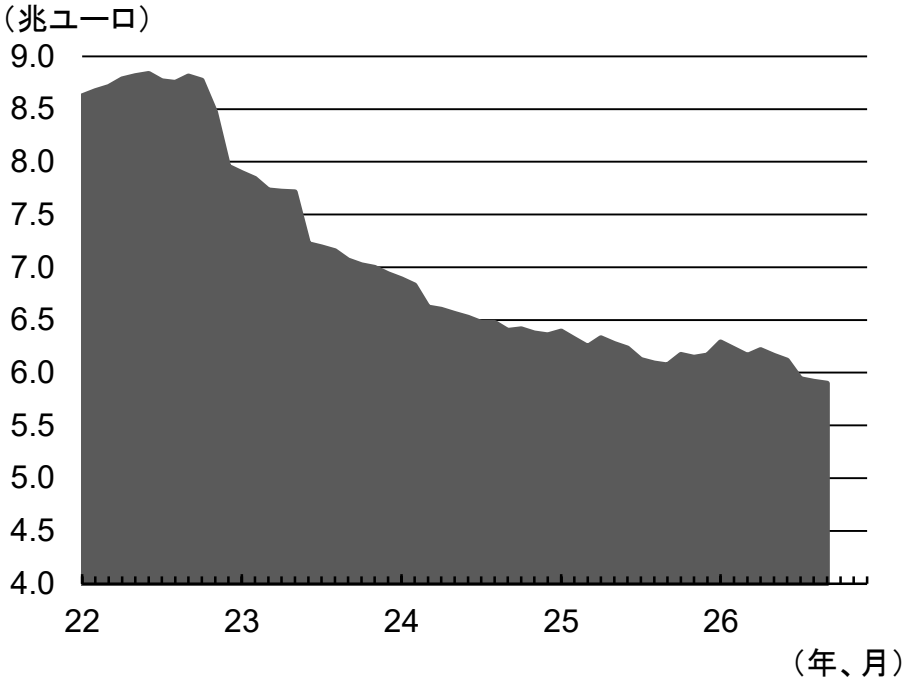
欧州中央銀行（ECB）は10月29日に政策理事会の結果を公表し、政策金利（預金ファシリティ金利）を現行の年2.5%で据え置いた。またクリスティーヌ・ラガルド総裁が任期を待たず2027年2月に辞任することを発表した。年内最後の理事会の結果は12月17日に公表される。

政策金利（預金ファシリティ金利）



（出所）ECB

ユーロシステムのバランスシート

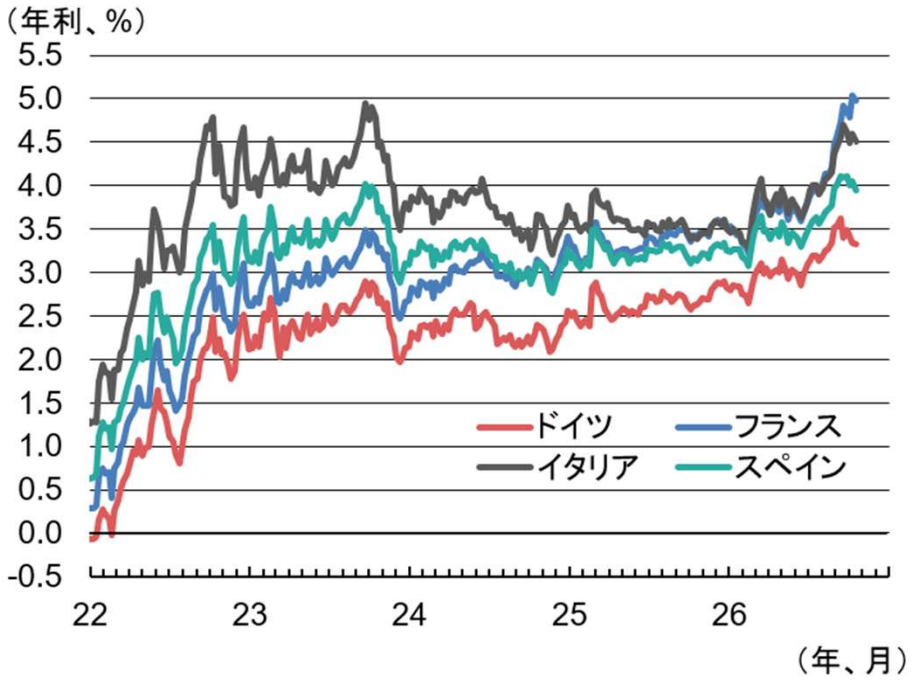


（出所）ECB

ユーロ圏景気概況⑦ フランスを除き金利は低下、株価は下落

ユーロ圏主要国の10月の長期金利はフランスを除き低下した。来年春のフランス大統領選に対する懸念などからフランスで長期金利の上昇が著しい。一方、同月の株価はドイツを除いて下落した。特にフランス株の下落が顕著だった。

10年国債流通利回り



（出所）各国中銀

株価（EURO STOXX 50）



（出所）STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル・対円ともに下落

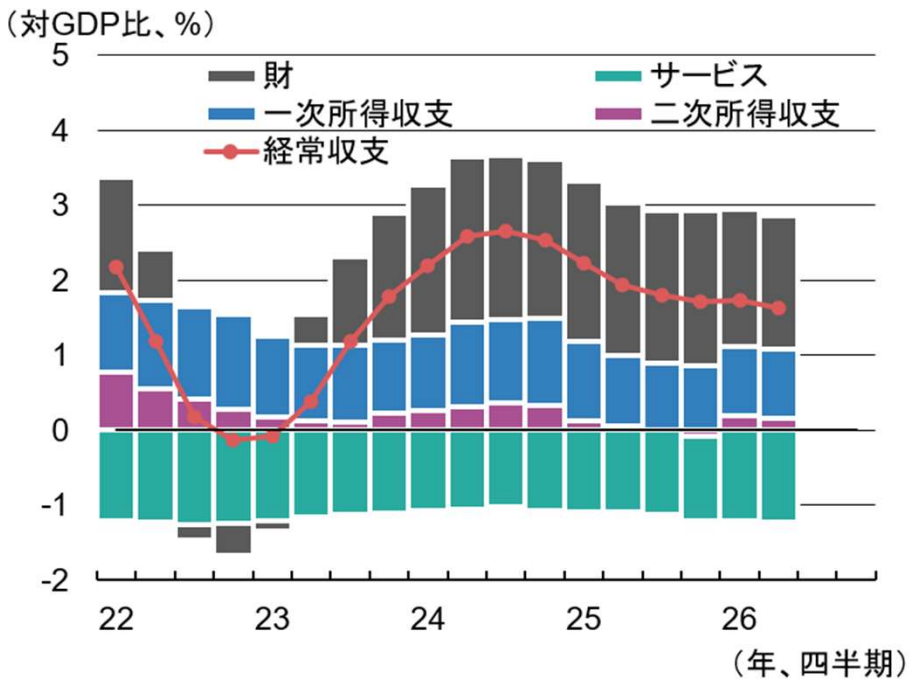
EUの通貨ユーロの10月の相場は対ドル・対円ともに下落した。フランス大統領選への懸念などから対円でも対ドルでもユーロ安となった。経常収支は、財収支（貿易）黒字が高止まりしており、実需面からのユーロ買い圧力は安定している。

ユーロ相場



（出所）ECB

経常収支

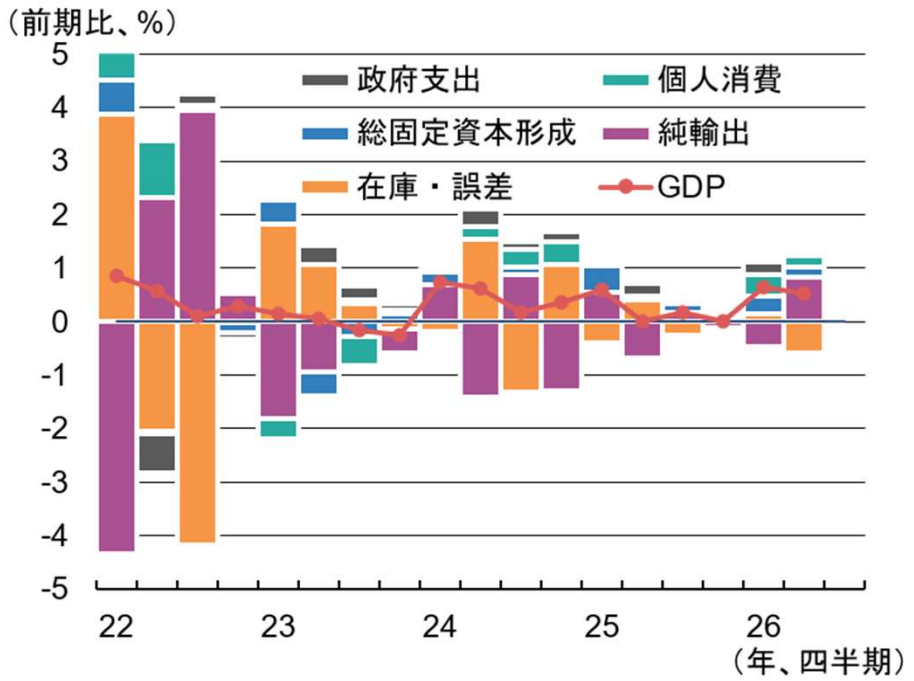


（出所）ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は拡大している

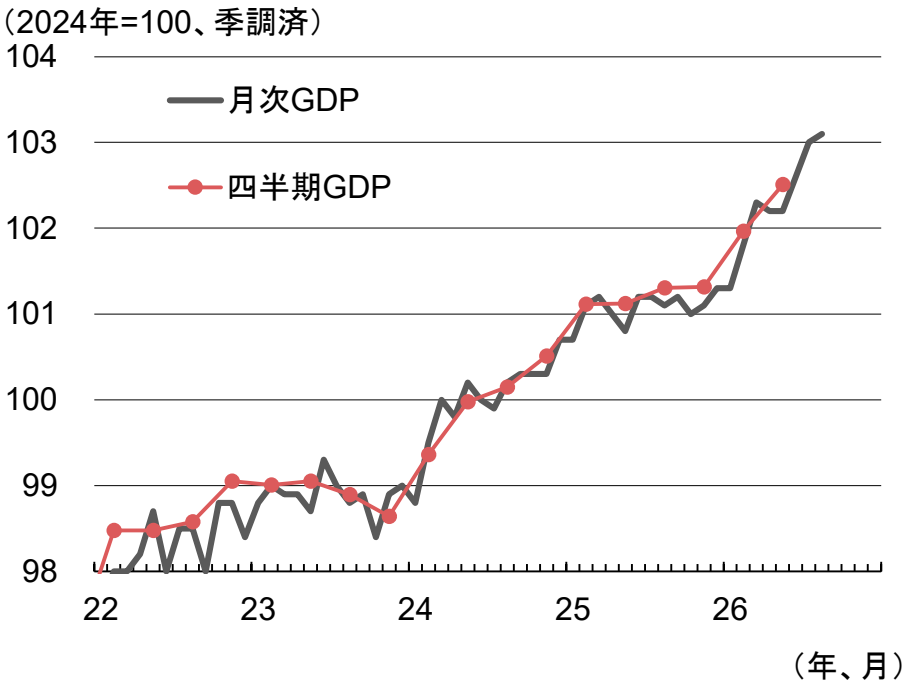
英国の4-6月期の実質GDP（確定値）は前期比+0.5%と、1-3月期（同+0.6%）から増勢が鈍化した。需要項目別には、純輸出が堅調だった一方、個人消費や総固定資本形成の増勢が鈍化した。一方、8月の月次実質GDPは前月比+0.1%と増勢が7月（同+0.4%）から鈍化した。

実質GDP



（出所）英国家統計局（ONS）

月次実質GDP

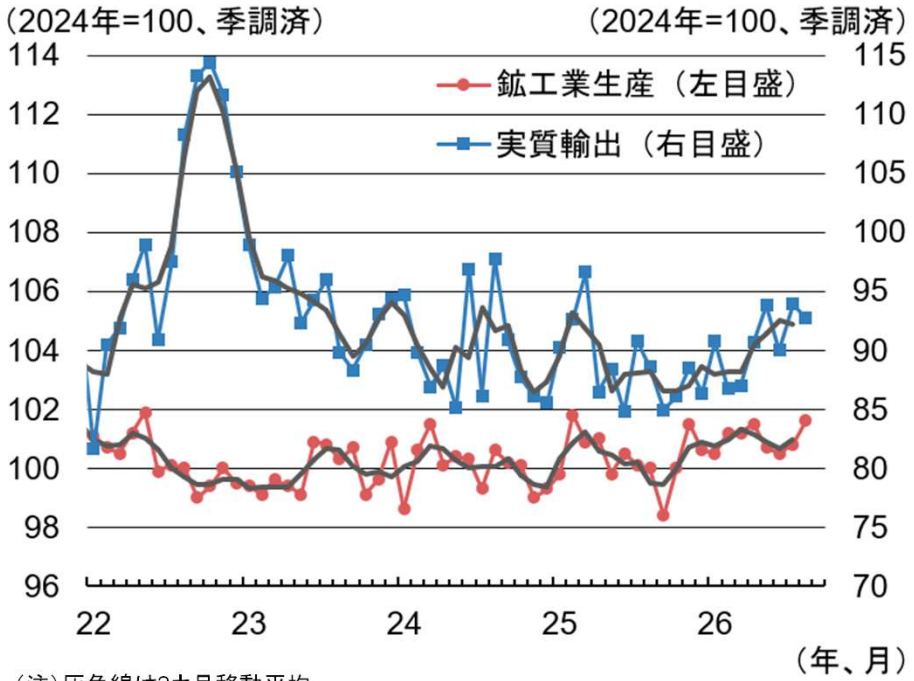


（出所）ONS

英国景気概況② 生産は低迷している

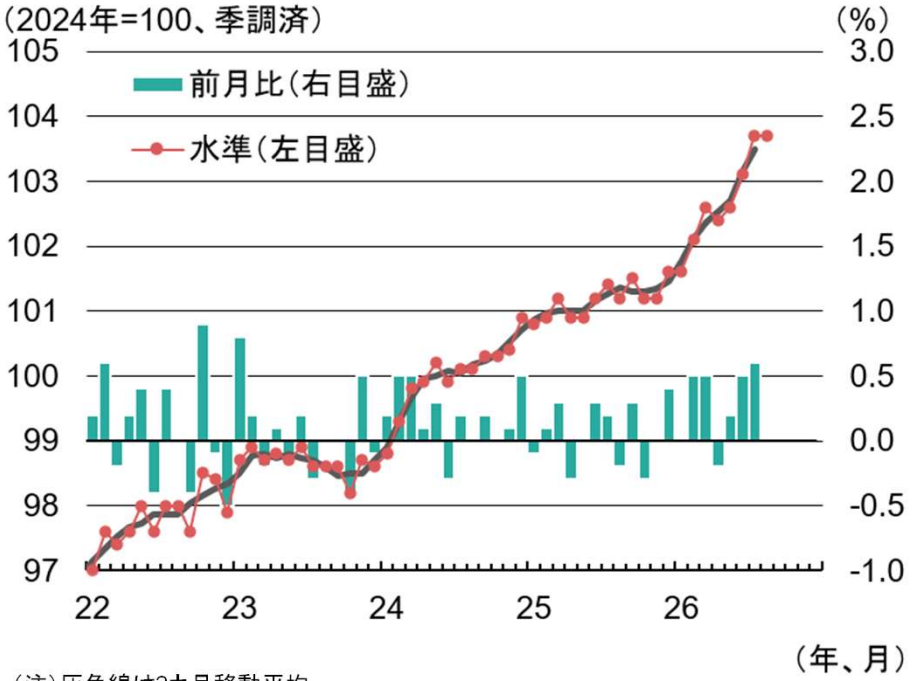
英国の8月の鉱工業生産は前月比+0.8%と、2カ月増加したものの、均した動きは横ばい。一方、同月の実質輸出は同▲1.2%と反落し、均した動きは頭打ち。他方で、同月のサービス業生産は同横ばいにとどまったが、均した動きは上向き。

鉱工業生産と実質輸出



(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

サービス業生産

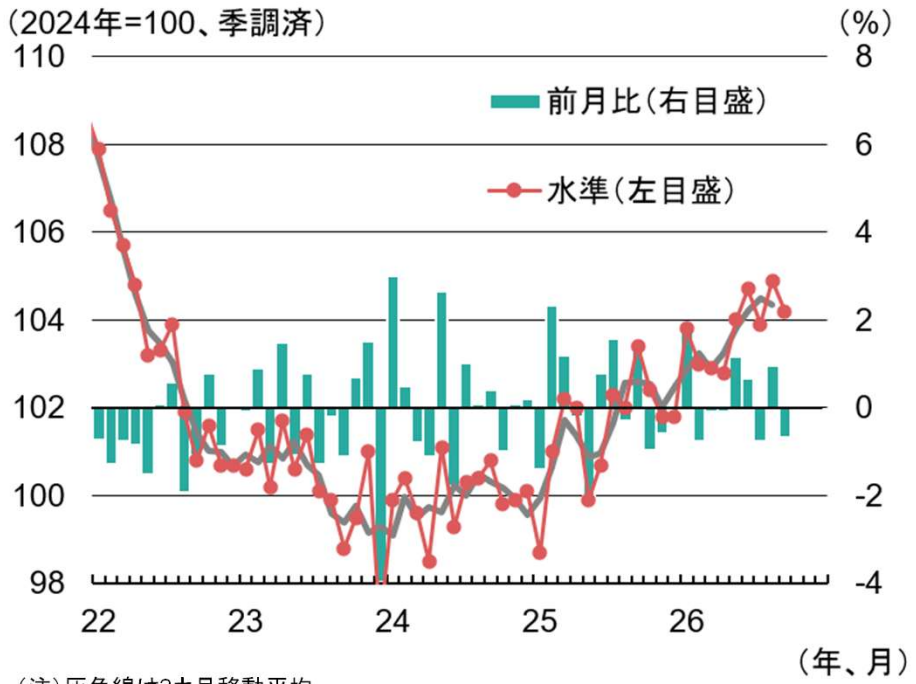


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は頭打ち

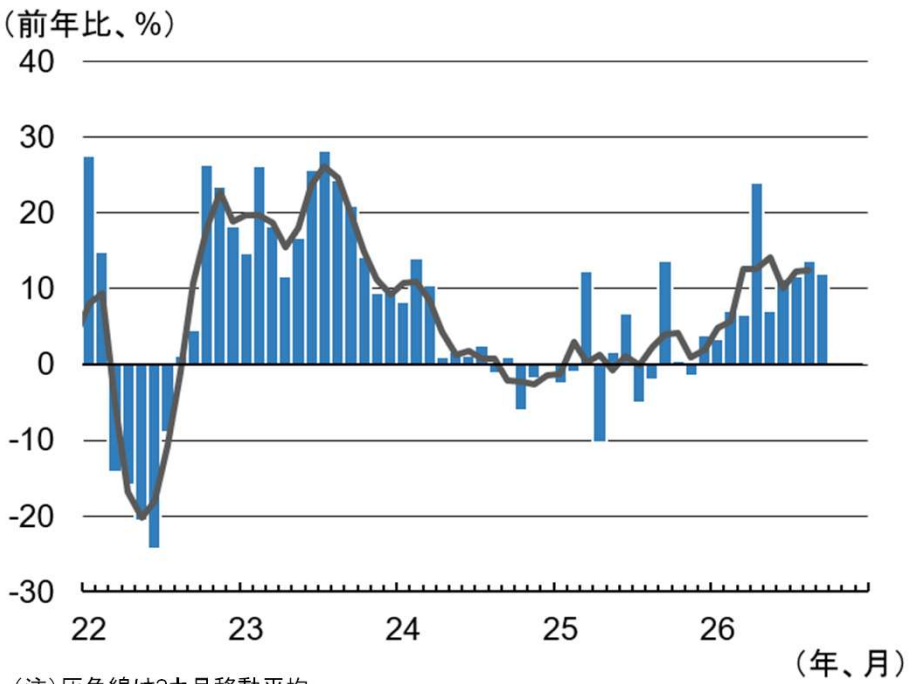
英国の9月の小売数量（除く石油）は前月比▲0.7%と再び減少し、均した動きは頭打ち。また同月の新車販売台数（乗用車）は前年比+12.0%と高い伸びを維持し、堅調。市場規模は年率218万台レベル。

小売数量



（注）灰色線は3カ月移動平均
（出所）ONS

新車販売台数（乗用車）

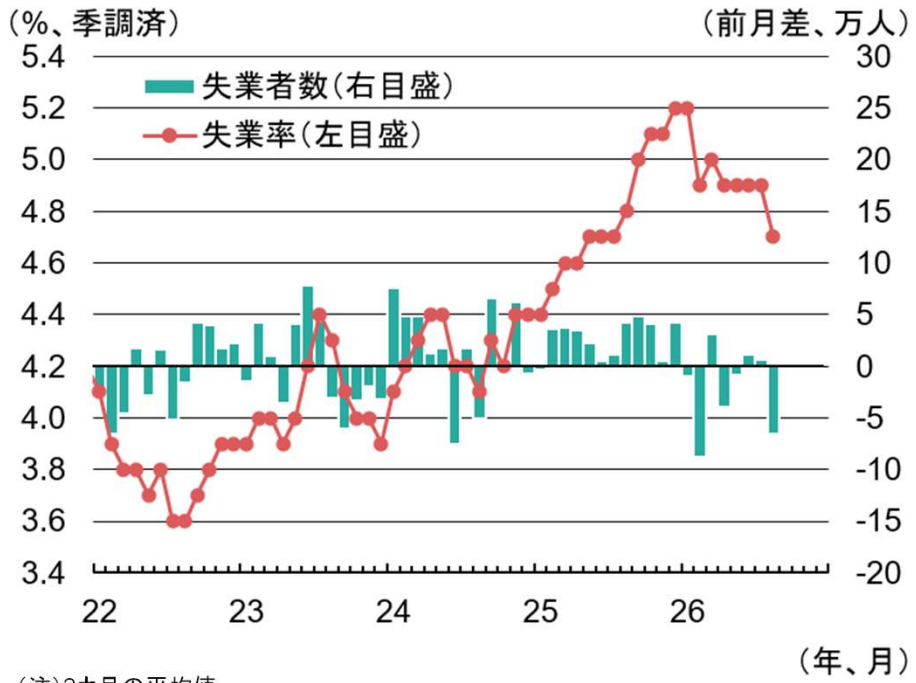


（注）灰色線は3カ月移動平均
（出所）英国自動車工業会（SMMT）

英国景気概況④ 雇用は改善

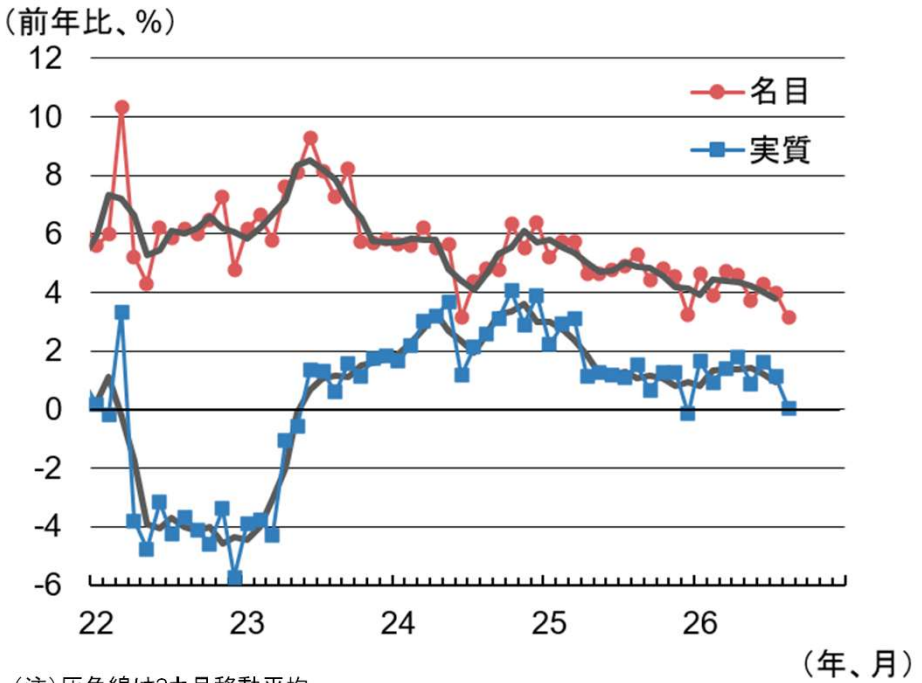
英国の8月の雇用統計では、失業率（3カ月移動平均）が4.7%と5カ月ぶりに低下した。一方、失業者数は前月差6.6万人減と3カ月ぶりに減少し、雇用情勢は改善に転じたもよう。他方で、賃金の増勢は、物価変動の影響を除いた実質ベースだと前年比ほぼゼロまで鈍化。

失業率



（注）3カ月の平均値
（出所）ONS

平均賃金（週給）

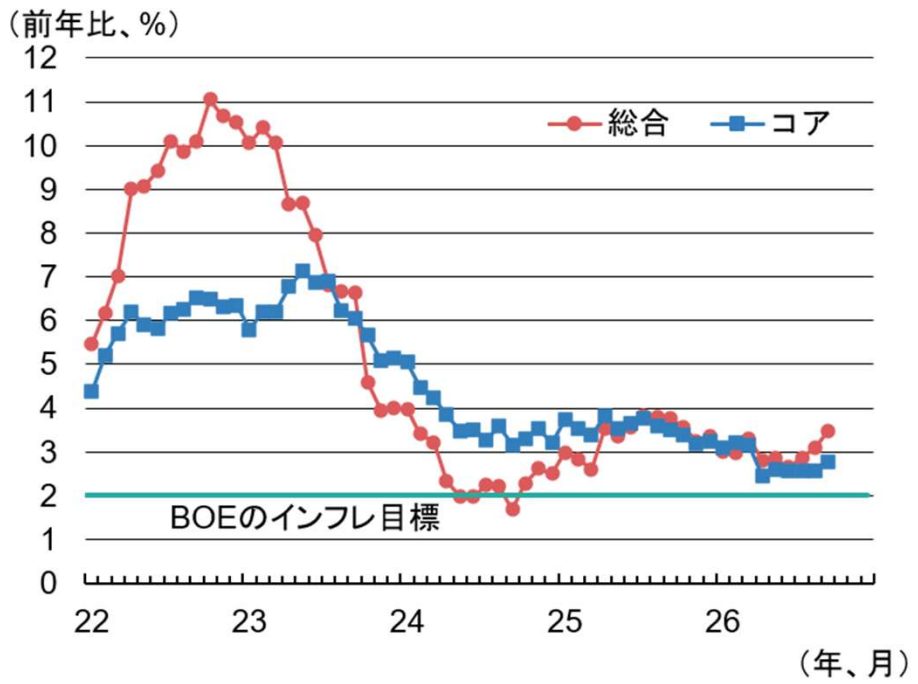


（注）灰色線は3カ月移動平均
（出所）ONS

英国景気概況⑤ インフレは加速している

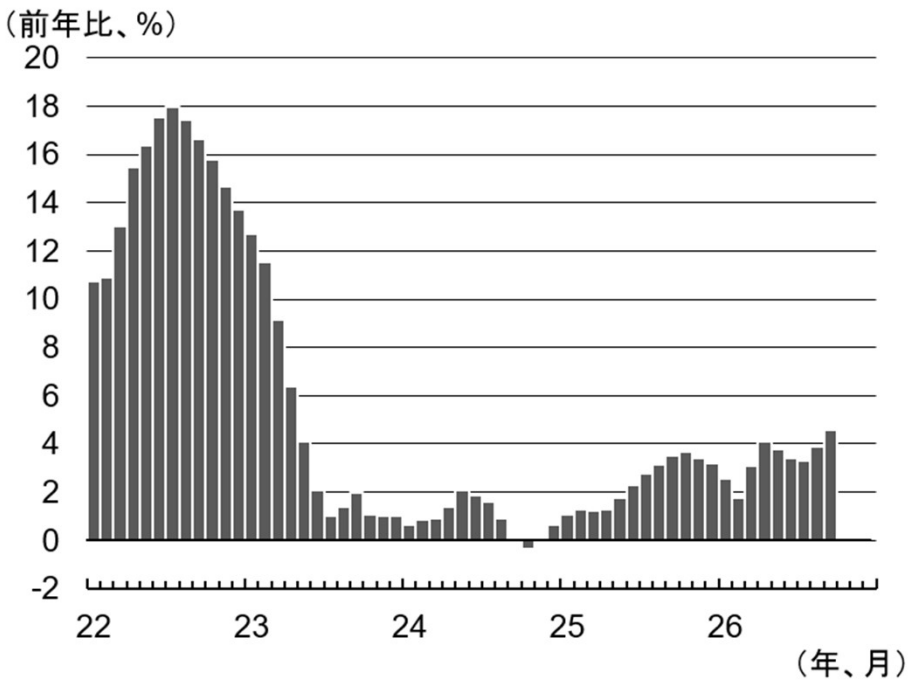
英国の9月の消費者物価は、総合ベースが前年比+3.5%と3カ月連続で上昇が加速した一方、変動の激しい項目を除いたコアベースも同+2.8%と5カ月ぶりに上昇が加速した。一方、同月の生産者物価（産出ベース）は同+4.6%と上昇が再び加速した。イラン情勢の緊迫化に伴う燃料価格の高騰の影響が徐々に顕在化してきたもよう。

消費者物価



（出所）ONS

生産者物価（産出ベース）

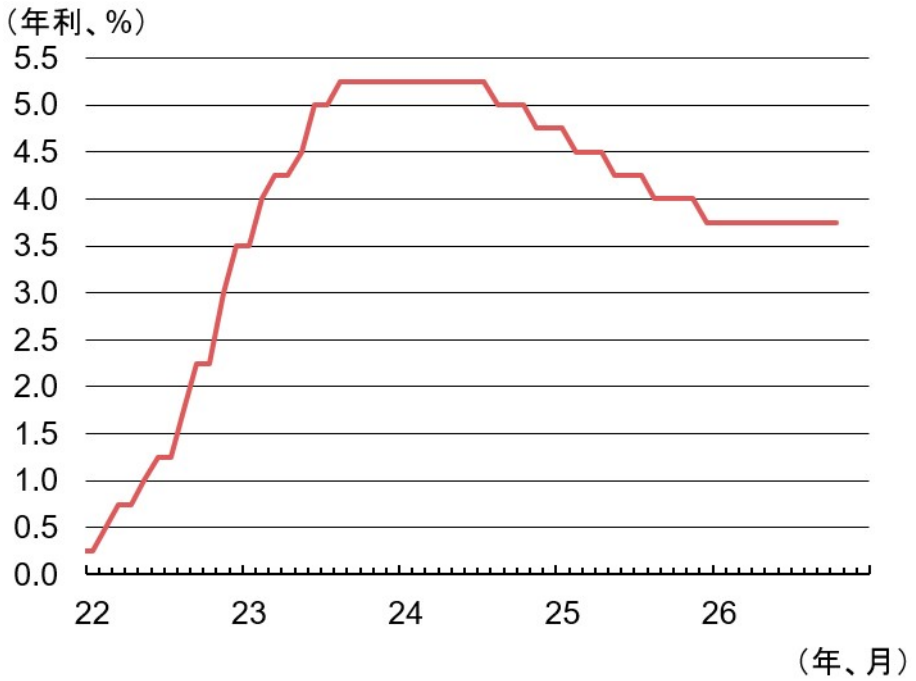


（出所）ONS

英国景気概況⑥ BOEは11月委員会で金利を引き上げる見通し

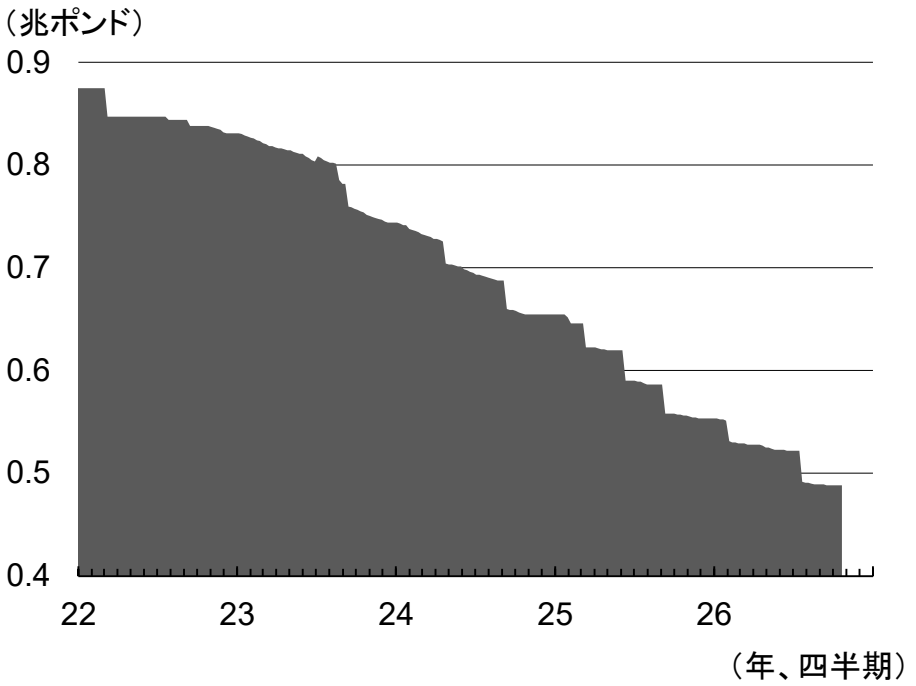
イングランド銀行（BOE）は11月5日に金融政策委員会（MPC）の結果を公表し、政策金利を現行の年3.75%から4%に引き上げる見通し。インフレの加速を受けて、BOEはタカ派姿勢を強めている。年内最後のMPCの結果は12月17日に公表される。

政策金利（バンクレート）



（出所）イングランド銀行（BOE）

BOEの国債保有高



（出所）BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価も上昇

英国の10月の長期金利は上昇した。インフレ加速に対する懸念から長期金利は上昇したが、バーナム政権が秋季予算案で財政拡張の財源（銀行税の引き上げ）を示したことで急騰には至らなかった。一方、同月の株価は上昇した。バーナム政権による財政規律順守の姿勢が好感され、幅広い銘柄が買われた。

長短金利（10年債と3カ月債）



（出所）BOE

株価（FT30指数）

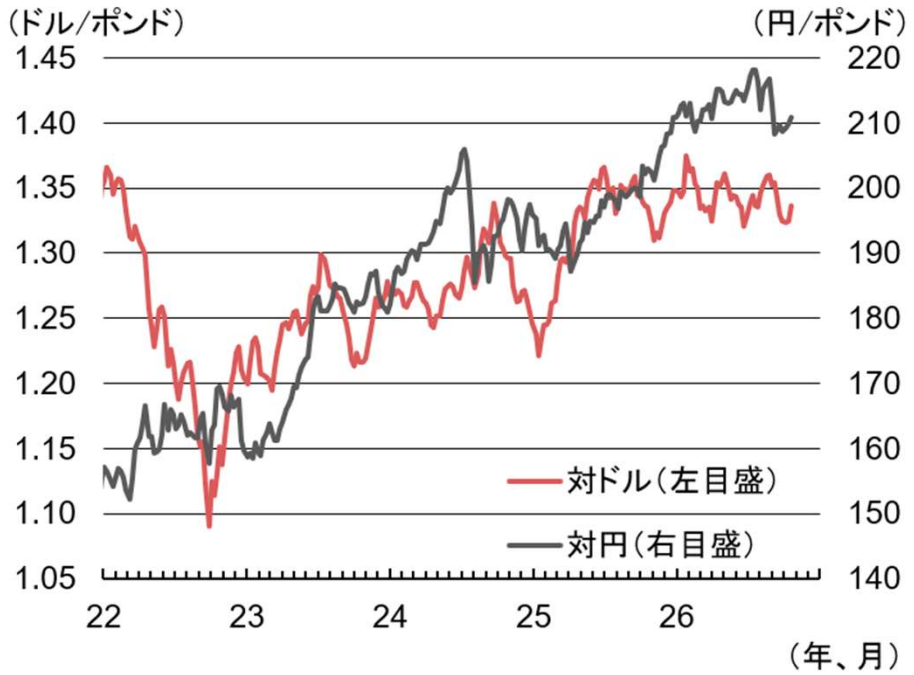


（出所）Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドル・対円ともに上昇

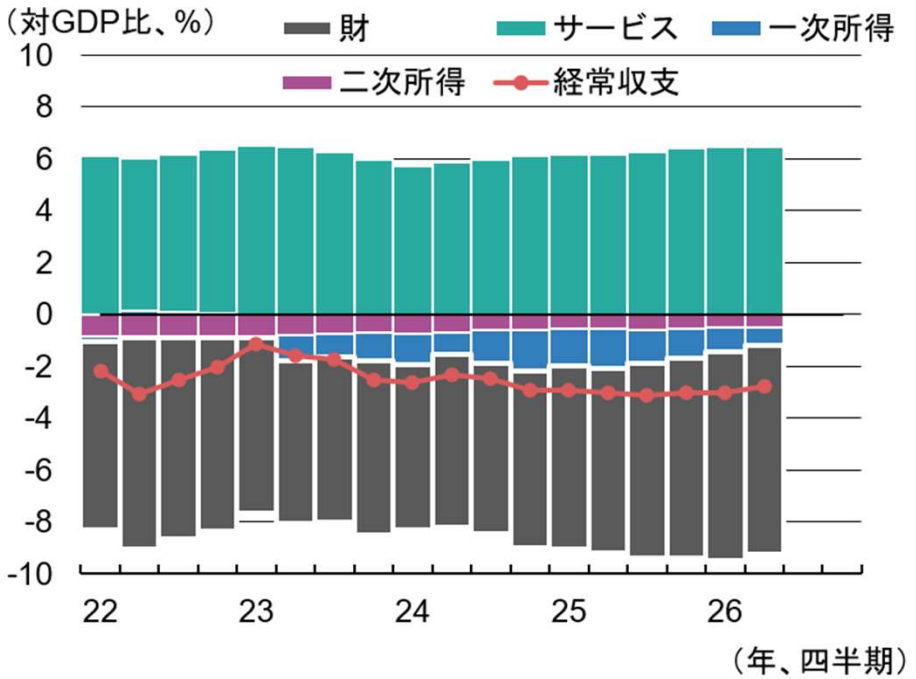
英国の通貨ポンドの10月の相場は対ドル・対円ともに上昇した。バーナム政権による財政規律順守の姿勢に加えて、11月のBOEが利上げ観測を背景にポンドが買い戻された。経常収支は、名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



（出所）BOE

経常収支



（出所）BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

（お問い合わせ）

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL：03-6733-1628 E-mail：chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー